

◆ 目黒区 ◆

中小企業の景況

令和5年度第1四半期
(令和5年4~6月)



目黒区 産業経済部 産業経済・消費生活課

目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（令和5年4～6月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	4
製造業	4
卸売業	8
小売業	11
サービス業	14
建設業	17
(3) 調査員のコメント	20
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（令和5年6月）	23
4. 特別調査「アフターコロナと中小企業」	26
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	28

調査の概要

1. 調査時期 令和5年4～6月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

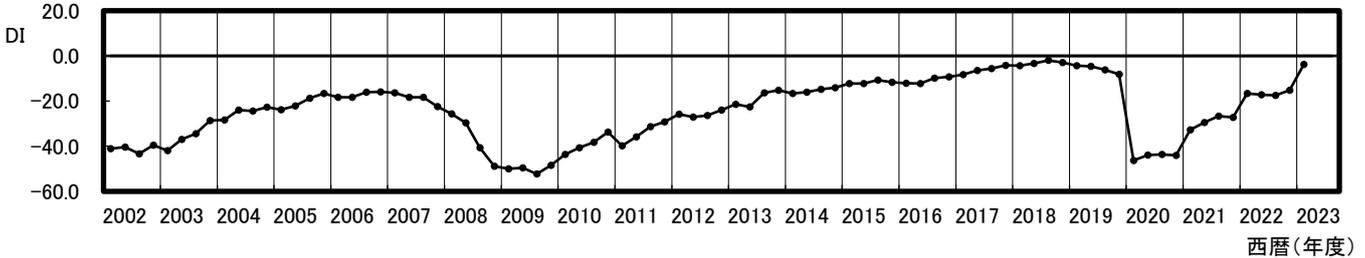
	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	65	64
卸 売 業	21	21
小 売 業	31	31
サ ー ビ ス 業	44	44
建 設 業	31	31
合 計	192	191

1. 都内中小企業の景況（令和5年4～6月期）

（一般社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

業況は大幅に改善する

都内中小企業景況・6業種合計 DI



今期の6業種合計の業況判断DIは、経済活動・社会生活の正常化への動きが加速したことから、 $\Delta 3.7$ （前期 $\Delta 15.2$ ）と前期に比べ11.5ポイント増と大幅に改善した。

業種別で見ると、全業種で大きく改善し、特に建設業と不動産業はプラスに転じた。

来期は、さらなる改善傾向が予想されており、好転をうかがう位置まで持ち直すことも期待される。

※業況判断DI：「良い」企業割合－「悪い」企業割合 季節調整済

	前 期	今 期	増 減	来期予想	今期との増減
製 造 業	-14.2	-7.1	7.1	-3.7	3.4
卸 売 業	-18.1	-5.5	12.6	-3.1	2.4
小 売 業	-26.4	-14.2	12.2	-12.7	1.5
サ ー ビ ス	-17.4	-2.7	14.7	0.5	3.2
建 設 業	-4.6	11.0	15.6	13.9	2.9
不 動 産 業	-2.9	8.2	11.1	7.9	-0.3
総 合	-15.2	-3.7	11.5	-1.2	2.5

<製造業>

業況は半導体不足の緩和が進んでいるといった好材料も加わり大幅に改善した。売上額・受注残については増加に転じ、収益は水面下ながら大きく持ち直した。価格面では販売価格は上昇傾向が続き、原材料価格は前期並の上昇が続いている。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「原材料高」、「売上の停滞・減少」の順となり、重点経営施策の上位2位も前期同様に「販路を広げる」、「経費を節減する」の順となっている。

来期の業況は引き続き改善が期待され、売上額・受注残・収益は今期同様の水準が保たれると予想している。

<卸売業>

業況は大幅に改善した。売上額は社会経済活動の正常化に伴い大幅に好転し、収益は大きく持ち直し好転を窺える位置まで見えてきた。価格面では販売価格が再び上昇したものの、仕入価格は前期並に推移した。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「仕入先からの値上げ要請」の順となり、重点経営施策の上位2位も前期同様に「販路を広げる」、「経費を節減する」の順となっている。

来期の業況は引き続き改善が見られると予想している。売上額・収益においては今期同様に推移すると見ている。

<小売業>

業況はコロナ禍も落ち着きを見せ客足が増加したことから水面下ながら大幅に改善した。売上額・収益においても大きく上向いた。価格面では仕入価格、販売価格ともに上昇が続いている。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「仕入先からの値上げ要請」の順となり、重点経営施策の上位2位も前期同様に「経費を節減する」、「品揃えを改善する」の順となっている。

来期の業況は今期同様に推移すると予想している。売上額・収益においても変動なく推移すると見ている。

<サービス業>

業況は新型コロナの5類移行に伴い消費者の行動が活発になってきたことから、大幅に改善した。売上額・収益は大きく増加に転じた。価格面では料金価格は大幅に上昇傾向を強め、材料価格は前期並の上昇が続いている。

経営上の問題点の上位2位は「売上の停滞・減少」、「人手不足」の順となり、重点経営施策の上位2位は前期同様に「経費を節減する」、「販路を広げる」の順となっている。

来期の業況は好調に転じることが期待され、売上額・収益は今期同様の増加傾向が続くと見ている。

<建設業>

業況は大きく好転した。売上額・受注残も大幅に増加に転じ、施工高は増加傾向を強めた。収益は大幅に減少幅を縮小させた。価格面では建設資材の高騰により材料価格の上昇が続いている。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「材料価格の上昇」、「人手不足」の順となり、重点経営施策の上位2位は「経費を節減する」、「人材を確保する」の順となっている。

来期の業況はさらに好感感が強まると予想している。売上額・受注残・施工高は今期並の増加が続き、収益はわずかに好転すると見ている。

<不動産業>

業況は大幅にプラスに転じた。売上額は大幅に増加幅を拡大させ、収益も大きく好転した。価格面では商品物件の不足などにより仕入価格がわずかに上昇を強め、販売価格は再び上昇傾向を強めた。

経営上の問題点の上位2位は「商品物件の高騰」、「商品物件の不足」の順となり、重点経営施策の上位2位は「情報力を強化する」に次いで、「販路を広げる」と「経費を削減する」が同率で続いている。

業況は今期並の好感感が続く予想している。売上額・収益は増加傾向が一服すると見ている。

[注]

○D.I (Diffusion Index ディフュージョン インデックス の略)

D.I (ディーアイ) は増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○ (季調済) D.I・・・本調査における D.Iは季調済 D.Iを使用しています。

季調済とは、期ごとに季節的な変動を繰り返す D.Iを過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工した D.I値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種 (例えば小売業) ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方向をみる方法です。